

“男女共同参画フェア”に参加しました！



6月23日(土)に小山市立文化センターにおいて、第16回男女共同参画フェアが開催されました。オープニング、開会式、男女共同参画に関する標語・写真作品表彰式と進み、ワーク・ライフ・バランス推進事業者認定証交付式では、近年女性の活躍が目立つ建設業4社も含め、今までで最多の12事業所が認定されました。

いよいよテレビなどでも人気の瀬地山角(せちやま かく)氏の「笑って考えよう！ワーク・ライフ・バランス～男の家事が社会を救う～」と題した基調講演に入りました。今、日本が置かれている現状と、解決策などをユーモアとともにわかりやすい事例で説明され、おおまかな内容は次のとおりでした。

- 夫の所得が上がると妻は専業主婦が多くなり、主婦が制度的に優遇され、ATM夫と家政婦妻状態に。共稼ぎの世帯でさえも男性の家事育児は非常に短時間であり、社会的に大きな問題にすべきレベル。
- 今は夫が一人で妻子を養うために頑張っても、給料が上がらない時代。「二頭立て馬車」という表現を使い、妻も正社員の状態を維持し、二人で働けば夫婦の生涯賃金は一億円の宝くじをあてるのと同じくらいに。男は出産することはできないが、その他のことはできるので、男性の家事育児の時間を増やし、妻もフルタイムで働くことが必須。
- 日本は7対3で男性の自殺が多い国で、自殺は殺人の70倍、交通事故の6倍。二人で働けば、夫が仕事と家庭の板挟みで悩み、自殺することも防げる。
- 国の調査によると、女性が専業主婦になって欲しいとは男女とも望んでいないし、男性にも家事育児を望んでいる。これからの超少子高齢化社会に向かい、夫は家事を手伝うものではなく、当たり前のこととして家事を担うことが妻の就労継続を支え、自分の命も子どもの命も救う。満員の会場は、軽妙な語り口の中にも説得力がある講演に、終始聞き入っていました。

